

令和 7 年度

江差町教育委員会外部評価委員会
点検・評価報告書
(令和 6 年度事業分)

令和 8 年 3 月

教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価、並びに町議会への
報告と町民への公表について

平成19年6月に一部改正された地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）により、江差町教育委員会では平成20年度から毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しこれを議会に提出するとともに、町民へ公表しております。

点検及び評価を行うにあたっては、「教育に関する学識経験を有する方の知見の活用を図る」ものとされ、点検・評価の具体的な項目や指標については、各教育委員会が実情を踏まえて決定し、議会や地域住民の指摘を受けて改善していくこととなります。

「令和6年度江差町教育委員会外部評価委員会点検・評価報告書」は、地教行法に基づき効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、江差町教育推進計画「江差の教育を進めるために」（令和3～令和7年度）を基本にした「令和6年度教育行政執行方針」に定める基本方針及び重点目標の主な施策・事業をはじめとする全ての事業について点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者等による「江差町教育委員会外部評価委員会」からさまざまなご意見やご指導をいただきまとめたものです。

令和8年3月

江差町教育委員会

1 点検・評価の義務付け

(1) 点検・評価の義務付け

教育委員会は、毎年、学識経験を有する者の知見も活用しながら、自らの事務の管理・執行の状況について点検・評価を行い、その結果を議会に報告するとともに、公表することが義務付けられました。※【地教行法第 26 条】

(2) 教育委員会の対応

江差町教育委員会では、前年度の活動状況について点検・評価を開始し、町内の有識者 5 名で構成される「江差町教育委員会外部評価委員会」から広く意見を聴取しました。

※委嘱した外部評価委員…任期：令和 7 年 1 2 月 1 日～令和 9 年 1 1 月 3 0 日

委員長 太 田 誠（学識者：元江差町教育委員会教育長）

副委員長 川 口 栄味子（社会教育関係者：江差町スポーツ協会副会長）

委員 上 田 誠（社会教育関係者：江差町文化協会副会長）

委員 石 橋 忍（社会教育関係者：民生委員・児童委員）

委員 福 島 勇（学校教育関係者：江差北小中学校 P T A 会長）

○会議開催月日 第 1 回 令和 7 年 1 2 月 2 2 日

第 2 回 令和 8 年 2 月 2 5 日

2 点検・評価の対象及び方法

(1) 対象

江差町教育委員会が所管する事務事業（総務係、学校教育係、社会教育係、地域文化係、図書係）すべてにおいて点検・評価の対象としました。

(2) 方法

江差町が作成する「令和 6 年度主要施策の成果説明書」に基づき、江差町教育委員会が所管する事務事業について作成しました。

(3) 参考資料等

- ・令和 6 年度決算監査関係資料（令和 6 年度各会計歳入歳出決算書（関係部分抜粋）、令和 6 年度各会計決算に係る主要施策の成果説明書（関係部分抜粋））、議会決算特別委員会・監査委員会の意見
- ・江差町教育推進計画（江差の教育を進めるために）（令和 3 年度～令和 7 年度）
- ・令和 6 年度教育行政執行方針

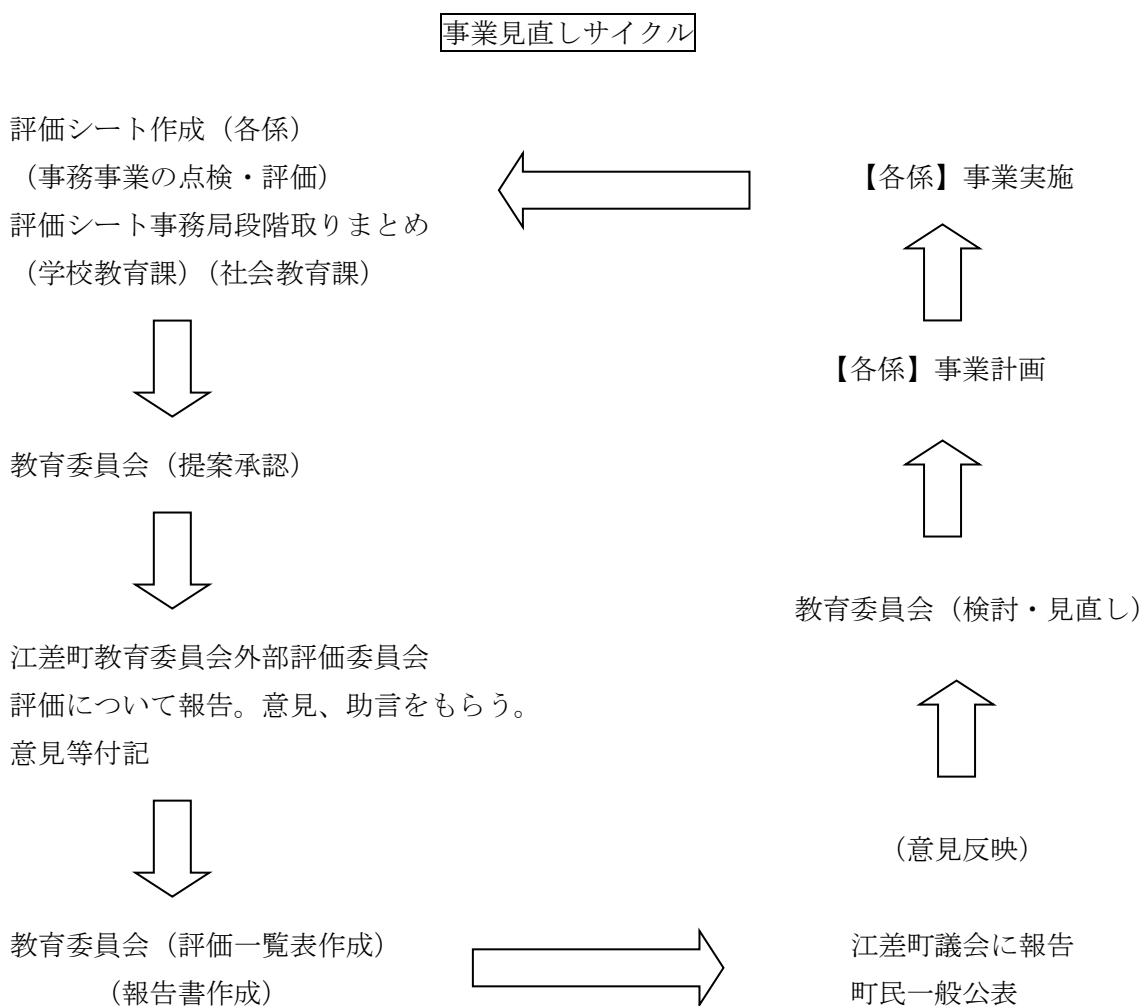
3 点検・評価の活用方法

教育委員会は、外部評価委員会の評価と意見及び町民の要望・意見並びに教育委員会の自己評価・課題などについて、今後の事務事業や教育推進計画に反映させるよう努めるものとします。

●江差町教育委員会の点検・評価の流れ（概要図）

評価は、各事業などについて所管係が評価シートを作成することから始まり、教育に関する学識経験者等で構成された「江差町教育委員会外部評価委員会」からの評価内容に対する客観性の検証と改善に対する意見、助言等を踏まえ、教育委員会として報告書を作成し、議会へ報告するとともに、公表するものです。

また、公表により町民のみなさまからいただく意見、要望も参考に、今後の事業計画策定に反映し、これらのサイクルを毎年繰り返すことにより、事業の改善を進め、町民の目線に立った教育行政の運営に努めてまいります。



◆外部評価委員会の総合意見

点検・評価の総合意見は、江差町教育委員会の令和6年度事業について、教育長をはじめ江差町教育委員会事務局職員から説明を受け、外部評価委員会内部での質疑・議論の上、取りまとめたものです。

教育現場においては児童生徒の交流、運動会や学習発表会、遠足などの行事がコロナ禍前後で大きく変わりましたが、子どもたちのいきいきとした笑顔は変わりません。また、学校教育や社会教育の事業を通じ、学校と地域の方々との接点を多くつくってきたところです。

令和3年度に示された江差町教育大綱、江差町教育推進計画では、「子どもたちの誰ひとり取り残さない教育行政を推進する」「子ども一人ひとりに、目が行き届き、温かい教育を提供する町」「多様性の社会を尊重する力を育む町」「自己肯定感を高め、自己決定のできる力を育む町」「生涯を通じて学びを続ける人を育む町」を掲げ、「ふるさと江差に心の向く教育の推進」をテーマとして教育行政の推進にあたっています。

これらを進めるために各種の事務事業の展開を図っておりますが、いずれの事務事業についてもその「必要性」や「経済性・効率性」を客観的に評価いたしました。事業の必要性は町民にとっていずれも十分に認められるものではありますが、一層の創意工夫、効率化を求めるものであります。あわせてその達成度についても、課題の整理や事業の優先度等を考慮しながら、充実が図られるよう検討ください。

以下、分野別の評価について意見を述べます。

学校教育について

安全・安心な学校生活を送るために必要な設備として各学校にエアコンが設置されました。子どもたちが勉強しやすい環境と教職員の働きやすい環境の整備が早期に実施されたことは評価します。まだ体育館など一部にエアコンが導入されていないことから、今後、早期に整備するよう望みます。

学力の向上については、小中連携教育の推進や「江差町学力向上会議」を通じた学力の定着を図っていること、ICTを活用した学習習慣の定着が図られつつあり、また学力調査においても一定の成果が見られています。今後はICT端末の持ち帰りにより、学校だけではなく家庭内での学習が充実される取り組みを推進されるよう望みます。

特別支援教育については、通常学級において特別な教育的配慮・支援を要する児童生徒が増加しております。児童生徒の将来を見据え、また個々の特性も考慮しながら、学びの環境を充実させることを望みます。学習指導員の配置や特別支援教育支援員の増員など、充実した体制になっていることを評価します。

教職員の働き方改革については、校務の軽減や効率化、教育活動の改善を図るために「部活動休養日の設定」や「学校閉庁日の設定・拡充」、勤怠管理システムの導入等により一定の成果を上げていること、ICT推進などにより、教職員の負担軽減が図られており、引き続き取り組まれるとともに、さらなる負担軽減に向けた施策の検討を望みます。

学校給食費の無償化は、保護者の経済的負担の軽減に大きく寄与されていることを評価します。今後は児童生徒の意見も聞きながら、更なる充実した給食の提供が図られるよう望みます。

奨学金の募集については、随時募集しているものの利用実態は低調です。利用しやすい制度となるよう奨学金の見直しの検討を望みます。

社会教育・スポーツ振興について

社会教育は、青少年から成人まで教養の向上や健康の増進に向け、行政、地域及び家庭が連携し生涯にわたり学習する教育活動であり、「江差町教育推進計画」のテーマである「ふるさと江差に心の向く教育の推進」に基づき、年間を通じて多くの事業を展開してきたことを高く評価します。江差追分指導者を全校へ派遣し「江差追分」を体験する活動、あるいは学校の求めに応じながら地域の方々や学芸員が児童生徒の指導をサポートするなど、町の大切な歴史的・文化的資源に触れる取組は、教育推進計画を具現化するもので継続的な活動を望みます。

コミュニティスクール（学校運営協議会）における社会教育の果たす役割は益々重要となってきました。そのため、「地域とともにある学校」、「地域と学校でつくる学びの未来」を目指し、地域が学校に関わるだけでなく、学校も地域に関わっていく環境や取組を進めるなど、活動がより一層の充実されることに期待します。

少子化により中学校部活動は単独での活動が難しくなっており、子ども達の持続的なスポーツ・文化活動を地域全体で支えていく必要があります。そのため、地域人材を活用した指導体制の確保や近隣町との連携を図り、部活動の地域展開に向けた取組の充実を望みます。また、青少年を取り巻く環境に対応し、「親子で参加する」「地域で交流する」「世代間で交流する」といったことをコンセプトに遊び場が少ない中で子ども達が安心して遊びや交流ができる居場所づくりとして、運動公園や文化会館などの公共施設を活用した取組のより一層の充実を望みます。街なかで子ども達が元気にあいさつする姿が見られるなど「みんなで育てるえさしっ子運動」が定着してきており、今後も地域を巻き込んだ運動の展開を望みます。

成人教育については、町民の多くは年代を超えて学びたい意識・意欲は少なからずあるはずです。そこを「思う」だけでなく一歩前へ踏み込んだ取組として「シニアカレッジ江差学園」での多様な講座や世代間の交流など高齢者の学習活動のより一層の充実に向け、体験入学や幅広く活動の周知を図り参加しやすい環境の充実、成年期世代など幅広い年代における学習機会の創出を強く望みます。

町民が心身ともに健康で生活していく上で、日常的にスポーツに親しむこととその環境づくりはとても大切なことです。地域のスポーツ団体や少年団活動の積極的な支援、プロスポーツ団体等と連携した取組など、多様な活動機会の確保に加え、計画的な修繕や維持管理に努め、各施設の利用促進に向けた更なる取組を望みます。

芸術文化活動及び図書館活動・文化財博物館活動について

豊かな心や感性、創造性やコミュニケーション能力を育み地域文化の担い手を育成するためにも、身近にある伝統文化や現代の文化芸術に触れる機会の充実は大切です。江差町文化協会活動の支援や周知を図り、町民の文化活動に触れる機会の拡充に向けた取組を期待します。幅広い年代を対象とした文化芸術鑑賞の場の提供をはじめ、文化会館が有効的に利活用されるような取組の充実を望みます。

「江差町歴史文化基本構想」の理念に基づき、町民と行政が協働しながら継続的に文化遺産の保存・活用していくことが大切であり、私たちが先人から引き継いだものを未来にバトンタッチできる環境づくりを期待します。「エエ町宝箱会議」での議論を深め、「宝箱」ごとの保存活用計画の策定を進めることを望みます。一方、歴史的資料の映像公開や企画展の開催など積極的な取組を評価します。今後も各種歴史資料の整理を進め、郷土資料館の機能充実や旧中村家住宅など文化財施設の保存・活用に向けた取組に期待します。

開陽丸遺跡は貴重な文化遺産であり、水中遺跡の保存・活用に向けた取組が進められていることを高く評価します。今後も調査を継続し、保存・活用方法の検討や魅力発信に向けた取組の充実を図り、後

世に引き継いでいくことを強く望みます。

図書館は、乳幼児から高齢者まで全ての町民が文化的でうるおいのある生活を営むうえで大切な施設です。ボランティア団体と連携したブックスタートや絵本の読み聞かせ、学校との連携による児童生徒が読書に親しむ環境をサポートする地道な活動、さらに町のホームページでの新刊案内など、本の素晴らしさを伝えようとする取組を評価します。

町民が「図書館へ行ってみたい」という意識を高めるよう、魅力ある蔵書構成やイベント等の開催のほか、気軽に利用しやすい環境の充実を望みます。また、図書館検索システムによる検索・予約対応を積極的に周知しながら利用促進を図るとともに、引き続き働く年齢層にも考慮した開館時間の延長など、読書環境の充実を期待します。

外部評価委員としても、有形無形の江差特有の歴史的・文化的資源に触れながら「ふるさと江差に心の向く教育の推進」は不変なものと理解します。

一方で、人口が減少するなか担い手不足による社会教育団体の活動停滞が懸念されており、近隣町との広域的な連携など活動機会の充実を図っていくことが求められています。そのため、これまでの取組の検証や事業の見直しを行い、地域の総合力を発揮させるためにはどうあるべきか追求しながら更なる「社会教育の質の向上」を望みます。

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

学校教育課			
事務事業（評価項目）	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見
1	教育委員会に係る活動 【成果説明書1ページ、No.371】	・教育委員会の開催（13回） ・学校訪問（小中全5校） ・全道、管内研修会出席	自己評価どおりで良い
2	教育委員会事務局事務 【成果説明書1ページ、No.372～375】	・奨学金運営委員会の開催（0回） ・教委事務局の運営 ・職員人件費	自己評価どおりで良い
3	小学校教育の管理 【成果説明書1～3ページ、No.376～384】	・北部地区スクールバスの運行 ・教職員住宅の管理 ・小学校的管理 ・学校遊具の改修 ・学びのカタチづくり推進モデル事業の実施 ・江差小学校変圧器PCB廃棄物等搬出及び廃棄 ・学校エアコンの整備 ・公務補業務作業補助 ・小学校教育防犯対策	自己評価どおりで良い 体育館などエアコン未設置箇所の早期解消を望む B スクールバスの冬期間におけるバスの立ち往生等が毎年発生していることから一層の安全対策を望む

（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

学校教育課			外部評価委員意見		評価
事務事業（評価項目）	実施状況	自己評価（成果と課題）			
小学校教育の振興 【成果説明書3～4ページ、 No.385～394】	・英語指導助手（A・L・T）の配置 ・小中一貫教育の推進 ・特別支援教育の充実 ・学校図書整備 ・虫歯予防 ・学力検査、教育研究会等への補助 ・学習支援ソフトの整備 ・要保護児童等就学援助、特別支援教育就学奨励の実施 ・北海道医療大学との連携事業 ・指導用教科書の購入	・英語指導助手を各学校へ派遣し、外国語授業の充実と海外への興味関心を高めることに寄与した。 ・児童生徒を対象とした学校生活満足度アンケートの実施や教師を対象とした研修会の実施等、小学校と中学校のスムーズな接続と小中連携教育の充実が図られた。 ・各小学校に特別支援教育支援員を配置し、特別な配慮や支援を必要とする児童を支援するとともに、通常学級も含め円滑な学校運営に寄与した。令和6年度において、支援員4名を増員している。 ・学校図書は古い蔵書を整理し、蔵書の充実に努めている。 ・虫歯予防対策は、実施のための薬剤確保ができず未実施となった。薬剤の確保ができ次第、実施したい。 ・C・R・T学力検査により、基礎・基本の定着度等の傾向を把握し、学習指導の充実につなげている。教育研究会や特別支援学級教育研究会への補助を行い、教員の指導能力研鑽に寄与した。 ・タブレット用学習支援ソフトを整備し、授業効率や指導効率の向上、家庭への持ち帰りによる学校外での学習能力向上につなげられているが、家庭学習時間の十分な確保に課題がある。 ・要保護児童や特別支援教育（R6：43人）の就学に対し就学奨励費を支給することにより、保護者の負担軽減が図られた。 ・北海道医療大学と連携事業により、教育相談や心の健康教育等共同研究を実施し、江差町における児童生徒の教育支援のあり方や方向性を検討。幼保小中の10年間で子供たちの成長をサポートするかけはしプロジェクトの実施や多様化する不登校対策などに寄与している。 ・令和6年度から教科書が改訂されることに伴い、教員の指導用教科書を購入し、効果的な授業の実践に寄与した。	自己評価どおりで良い 家庭学習などを含めた 学力向上に向けた取り組みの充実を望む 指導主事、特別支援教育支援員、学習指導員など学校への支援体制が充実している		B

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

学校教育課			
事務事業（評価項目）	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見
5 学校給食費等の助成 【成果説明書5ページ、 No.395～396】	・要保護児童、特別支援教育児童への学校給食費支給 ・学校給食費完全無償化	・要保護児童、特別支援教育児童への学校給食費支給により、保護者の負担軽減が図られた。 ・学校給食費の完全無償化により、保護者の負担の大幅な軽減が図られている。	自己評価どおりで良い
6 中学校教育の管理 【成果説明書5～6ページ、 No.397～401】	・北部地区スクールバスの運行 ・学校備品の購入、修繕の実施 ・学びのカタチづくり推進モデル事業の実施 ・学校エアコンの整備 ・中学校防犯対策	・北部地区における遠距離通学となる生徒に対し、登校時1回、下校時2回、スクールバスを運行。さらには休日には登校時1回、下校時1回、部活動便を運行し、学校や保護者の意見や部活動を踏まえた運行を行うことができた。 ・各種教材や備品の購入により学校運営の安定化に努めた。また校舎等の維持修繕を行い、快適な学校生活を送ることができるよう努めている。 ・学びのカタチづくり推進モデル事業補助金を各校に交付することにより、モルックやリズムトレジャーニング体験、地元書店での選書体験など特色ある学校づくりや生徒に合った教育課題への対応を行うことができた。 ・エアコンの整備（繰越事業）により、全中学校の普通教室、特別支援教室、一部特別教室、保健室、職員室、校長室に設置された。生徒の熱中症予防や健康管理、あわせて教育環境の向上を行うことができた。 ・江差小学校への不法侵入事件を受け、各中学校の建具の不具合箇所を改修し、防犯対策を行った。	自己評価どおりで良い 体育館などエアコン未設置箇所の早期解消を望む スクールバスの冬期間におけるバスの立ち往生等が毎年発生していることから一層の安全対策を望む

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

事務事業（評価項目）			学校教育課	
実施状況			外部評価委員意見	評価
中学校教育の振興 【成果説明書6～7ページ、 No.402～408】	特別支援教育支援員の配置 ・学校図書整備 ・中体連等出場補助 ・学力検査の実施 ・学習支援ソフトの整備 ・要保護生徒等就学援助、特別支援教育就学奨励の実施 ・指導用教科書の購入	自己評価（成果と課題） ・各中学校に特別支援教育支援員を配置し、特別な配慮や支援を必要とする生徒を支援するとともに、通常学級も含め円滑な学校運営に寄与している。 ・学校図書は古い蔵書を整理し、蔵書に充実に努めている。 ・中体連各種競技大会への出場に係る経費を補助し、陸上競技などの体育競技や吹奏楽コンクールなどの大会に出場し、生徒の体力向上等に寄与した。R6年度は陸上、野球、バレーボールが全道大会に出場した。また、部活動の地域移行の検討も進めている。 ・C R T学力検査により基礎・基本の定着度等の傾向を把握し、学習指導の充実につなげている。 ・タブレット用学習支援ソフトにより、授業効率や指導外での学習能力向上につながり、保護者の負担軽減が図られた。 ・令和7年度から教科書が改訂されることに伴い、教員の指導用教科書を購入し、効果的な授業の実践に寄与した。	外部評価委員意見 自己評価どおりで良い 家庭学習などを含めた学力向上に向けた取り組みの充実を望む	B
8	学校給食費等の助成 【成果説明書8ページ、 No.409～410】	要保護生徒、特別支援教育生徒への学校給食費支給 ・学校給食費完全無償化	自己評価どおりで良い	A
9	学校給食の充実 【成果説明書16ページ、 No.434】	江差町・上ノ国町学校給食センターへの負担金	自己評価どおりで良い	B
10	奨学金の貸与 【成果説明書19ページ】	高等学校や大学等の進学を希望するも経済的理由により修学が困難な者に対し、無利子で奨学金を貸与	自己評価どおりで良い 使用しやすい奨学金制度への見直しを望む	C

（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

事務事業（評価項目）			社会教育課	
社会教育事務	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
社会教育事務 【成果説明書8ページ、 No.411】	・社会教育委員の会（2回開催） ・公用車リース及び管理（ハイエース乗車延べ人数711人） ・コミュニティスクールの充実	・委員会での意見交換、研修会への参加など、活発な活動が行われた。 ・生涯学習パス規程の対象とならない「10人未満で活用する場合」の小中学校授業、中学校部活動やスポーツ少年団の大会の移動支援が図られた。 ・江差北小学校ではコーディネーターと地域の方と連携し、畑の提供や作業協力などの活動が取り組まれたほか、江差小学校でのミシン実習補助など地域との協働の取り組みが行われた。	自己評価どおりで良い 社会教育団体など担い手不足の状況から広域化などの検討を望む	B
部活動地域移行対策 【成果説明書8ページ、 No.412】	・部活動地域移行検討協議会及び部会の開催 ・協議会3回、部会2回 開催 ・協議会だよりの発行 ・近隣町との意見交換会の開催	・令和13年度までを期間とする部活動の「地域展開」に向け、学校、地域、スポーツ・文化関係者による検討委員会を設置し、地域への移行に向け協議を行い、部活動の現状及び課題について情報共有した。が、具体的な活動には至らなかった。 ・少年団及び部活動指導者による推進部会を通じ各活動毎の課題などが協議され、課題を共有することができた。 ・各団体等を通じ、地域で指導可能な人材の募集を行ったが人材の発掘に至らなかった。 ・近隣4町（江差・上ノ国・厚沢部・乙部）との連携に向けた意見交換会を実施し情報共有が図られた。	自己評価どおりで良い 指導者の発掘・確保を進めるとともに、可能な種目から順次、進めていくことを望む	C
図書館資料整備 【成果説明書9ページ、 No.413】	・図書館資料購入	・1,874冊購入(前年度：1,985冊) ・貸出冊数および人数 17,741冊、4,821人(前年度：21,510冊、5,232人) ・定期的（週1回）に図書を購入し、利用者の希望に応じた図書を提供できるように努めた。	自己評価どおりで良い	A
図書館システム運用 【成果説明書9ページ、 No.414】	・図書館システムによる蔵書管理。インターネットを通じた蔵書検索、貸出予約の開始	・図書館システムにより効率的な蔵書管理や貸出事務が行われた。 ・インターネットを通じた検索や予約サービスにより利用者の利便性が向上した。 ・利用拡大に向けて、更なる広報・周知をしていくことが課題。	自己評価どおりで良い	B

（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

事務事業（評価項目）			社会教育課	
図書館事務	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
【成果説明書9ページ、No.415】	・読み聞かせ会、学校との連携事業 ・保育園、幼稚園、子育て支援センターへの読み聞かせ訪問 ・ブックスタート事業 年6回 ・夜間開館（19時まで開館） ・本と雑誌の譲渡会 ・水堀郵便局配本所運営 ・フリースペースの設置 ・蔵書点検の実施 ・スタンプカード企画 ・学習室企画	・すべての世代への読書推進を図るため、各種イベント等を開催を通じて本に親しむ機会の促進が図られた。 ・町内の幼稚園、保育園へ読み聞かせ訪問に行き、幼少期からの読書へ親しむ機会を作ることができた。 ・町内1カ所での臨時図書館を開設（南浜）。 ・週2回（水・金）の夜間開館を実施。利用実態から令和7年1月より週1回（水曜日のみ）とした。 ・中学生以下を対象としたスタンプカード企画を実施し、冬期間の利用促進を図った。（参加者17名） ・中高生の学習支援として冬休み期間に文化会館会議室を学習の場として提供したが、図書館内で学習する生徒が多く利用者は2名のみだった。 ・2階フロアにフリースペースのテーブル・イスの改善を行い利用環境を向上させ、本を読む以外の図書館の利用も促進した。	自己評価どおりで良い 図書館に足を向けるイベントなどの継続を望む	B
15				
生涯学習推進 【成果説明書10ページ、No.416】	・青少年健全育成事業の推進 ・少年の主張の開催 ・家庭教育支援事業 ・「家庭教育講演会」出席48名 ・二十歳のつどいの開催 参加者54名 ・シニアカレッジ江差学園の推進 ・親子魚さばき体験講座の実施	・夏・冬の年2回の生活リズムチェックシーターの取り組みを通じ、生活習慣の分析を行い、学校との情報共有を行いながら改善に向けた取り組みが図られた。 ・少年が社会に向けての意見、未来への希望を発表する機会を設け、少年の健全育成及び非行防止に対する理解を深める契機となることを目的とし、代表者の発表を中学校全校生徒が聞き、意識醸成が図られた。 ・例年開催の「家庭教育講演会」には、教職員、保護者等多くの来場があり意識向上につながった。 ・シニアカレッジは学生30名に対し、年間17の講座、行事を開設した。また、シニア世代と子どもとの交流を昔遊びを通じて行い、世代間交流が図られた。学生の高齢化と減少に伴い新入学生の確保が課題となっている。 ・「二十歳のつどい」を開催しこれからの時代を担う20歳の門出を祝福した。 ・親子魚さばき体験を実施し、食育を通じた親子交流の機会を提供した。	自己評価どおりで良い シニアカレッジについて体験入学を実施するなど広報・周知を望む	B
16				

（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

社会教育課			
事務事業（評価項目）	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見
生涯学習バス管理 【成果説明書10ページ、 No.417】	・生涯学習バスの運行・管理 延べ3,194人使用	・小中学校授業、中学校部活動やスポーツ少年団の大会の移動支援が図られた。 ・初年度登録から25年が経過していることから、車両の老朽化等や故障に伴う部品供給が困難になってきていることから、車両の更新の検討が必要。	自己評価どおりで良い
17			B
「わくわく子ども広場」運営 モデル推進事業 【成果説明書11ページ、 No.418】	・わくわく子ども広場の開催（延21日間） 来場者数 832人（前年度1,164人）	・文化会館大ホールにエア遊具やバドミントンなどを楽しめる「わくわく子ども広場」を開設し、冬期間の子どもたちや親子の交流の場として、多くの利用があり好評を得た。 ・特別企画として設置遊具を使用した「レース大会」を開催した（参加者20名） ・家庭用ゲームなどを自由に遊べる「わくわくゲームランド」を開催し、町長とのゲーム対戦など多くの子どもや親子が楽しめる企画を実施した。 ・中高生の利用が少ないなど、更なる利用拡大に向けた、内容の見直しや広報・周知を図る必要がある。	自己評価どおりで良い
18			B
プログラミングCAMP 【成果説明書11ページ、 No.419】	・プログラミング体験講座の開催 小学生3名、中学生3名参加	・まなびつぐを会場に倶楽部プログラミングストアーとの連携事業簿として、小中学生を対象にプログラミング講座を開催し基礎的なプログラミング技術のほかICT講話やスポーツ教室などにより交流が図られた。 ・1泊2日での日程のため参加者数が少なかった。	自己評価どおりで良い
19			B

（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

社会教育課			社会教育課	
事務事業（評価項目）	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価
文化会館管理等 【成果説明書12ページ、 No.420～421】	・指定管理委託による運営（㈱エイチケーサービス） - 来館者延べ23,436人（前年度：20,759人） ・畳張替、大ホール玄関段差解消スロープ、吸収式冷温水発生機真空漏れ修繕、屋上ガラリ部周囲コーキング補修、音響反射板部品交換、真空ヒーター清掃整備、外壁飾り鉄撤去などを実施 ・文化会館図書館窓防水改修 - 図書館の雨漏り対策	・指定管理者による文化会館を活用した「クリスマスイルミネーション」などの自主事業や施設の利用促進を含めたロビー展示を実施する等工夫しながら貸館業務の充実が図られた。 ・電気料及び燃料費の高騰による指定管理料が増加（光熱水費5,288千円の増額補正） ・大ホール玄関部の段差解消スロープを改修し利用環境の改善を図った。 ・老朽化により破損している外部階段の補修のほか、正面玄関床部のモルタル補修、テラス窓のコーキング処理、楽屋のフローリング改修を行い、施設の維持管理を行った。 ・8月に冷暖房用の給水式冷温水発生器が真空漏れによる故障が発生し、緊急修繕を行い猛暑時の冷房機能の維持をすることができた。 ・図書館窓枠の雨漏りの改修として窓枠コーキング改修を行った。 ・施設の老朽化に伴う施設及び設備の改修など、資材高騰も含め維持管理に伴う経費の増大が課題 ・ホールでのイベント開催など文化会館利用者の拡大が課題。	自己評価どおりで良い	B
20				
文化振興事務 【成果説明書12ページ、 No.422】	・江差町文化協会活動支援 ・芸術鑑賞事業（もったいないミュージカル実施）町内小学生対象事業	・江差町文化協会への活動費助成を行い、町民文化祭や団体活動への支援を行った。 ・小学生を対象としたミュージカル公演を行い、生の舞台芸術に触れる機会を提供することができた。	自己評価どおりで良い 成人向けの芸術鑑賞事業の検討を望む	B
21				
芸術鑑賞事業「音楽のゆうえんち」 【成果説明書13ページ、 No.423】	・江差町文化協会主催事業 ・「音楽のゆうえんち」 ・一般向け音楽コンサート、児童園児向け「親子で楽しむ音楽のゆうえんちin江差町」 ・参加者一般向け100名、児童園児向け335名	・バイオリンを中心とした音楽コンサートを一般向けと児童・園児向けの2公演を開催することにより、幅広い世代がプロによる生演奏を鑑賞することができた。	自己評価どおりで良い	A
22				

（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

社会教育課				社会教育課	
事務事業（評価項目）	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	評価	
23 歴史文化基本構想推進 【成果説明書13ページ、 No.424】	・北海道大学西山徳明氏と事業展開協議 ・教育委員会YouTubeチャンネル開設	・「歴史文化基本構想」の具現化を進める ことができていない。 ・構想策定に携わった北大の西山氏と今後の 具体化に向けた協議の場をもつことがで きた。 ・様々な動画公開をし、一般向けに江差町 の歴史文化の周知をすることができた。	自己評価どおりで良い	C	
24 旧中村家管理 【成果説明書13ページ、 No.425】	・会計年度任用職員3名の雇用。 ・年間334日の開館。 ・年間4,467人の入館者。	・施設を案内するための専門職員の雇用を 継続し、施設を公開することができた。	自己評価どおりで良い	B	
25 旧関川家管理 【成果説明書13ページ、 No.426】	・会計年度任用職員2名の雇用。 ・年間214日の開館。 ・年間1,487人の入館者。	・施設を案内するための専門職員の雇用を 継続し、施設を公開することができた。	自己評価どおりで良い	B	
26 博物館活動・旧檜山爾志郡役 所管理 【成果説明書14ページ、 No.427】	・会計年度任用職員3名の雇用。 ・年間334日の開館。 ・年間4,270人の入館者。 ・企画展「明治元年の箱館戦争―道南各地の 資料と史跡を通じて―」の開催（7/27～ 9/29）。 ・企画展「三上千代蔵作品展-自らの技を、 地域と共に、そして家族を想い-」の開催 （12/21～3/23） ・教育普及活動として「夜の博物館へよう こそ」「kaiyomaru Cup」を開催。	・施設を案内するための専門職員の雇用を 継続し、施設を公開することができた。 ・2回の企画展を開催し、常設展示だけでは 説明できない江差の歴史文化を紹介するこ とができた。 ・旧檜山郡役所庁舎でお化け屋敷的活動と して、夜のイベントを開催し親子などが楽 しむ機会を提供できた。 ・開陽丸引揚遺物に関連したドミノゲーム 大会を開催し開陽丸に関する高揚が図られ た。	自己評価どおりで良い	B	
27 ふるさと学習推進・文化財保 護事務 【成果説明書14ページ、 No.428】	・文化財調査委員会の開催（1回） ・学校の求めに応じた「ふるさと江差発見 事業」を14事業実施。 ・町内外から依頼を受けた江差の文化遺産 について18回の説明実施。	・「ふるさと江差発見事業」の実施により 『江差町教育推進計画』で掲げるテーマ 「ふるさと江差に心の向く教育の推進」の 具現化に寄与することができた。 ・町内外からの説明要望に応えることに よって江差の歴史文化を紹介することがで きた。	自己評価どおりで良い	B	
28 開陽丸船体現状確認調査 【成果説明書15ページ、 No.429】	・開陽丸船体現状確認調査（溶存酸素計の 交換）	・開陽丸大型船体の状況調査のため、溶存 酸素量を計測する機器の設置を行い保存環 境の確認をすることができた。	自己評価どおりで良い	A	

（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

社会教育課			
事務事業（評価項目）	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見
開陽丸遺物の保存・活用 【成果説明書15ページ、 No.430】	- 開陽丸遺跡・引揚遺物保存活用検討委員会開催（3回） - 地域おこし協力隊インタレン（1/19～2/1） - 講座「幕末の蒸気船」2/1に実施 - 開陽丸引揚遺物の整理及びデータベースの作成	- 専門的知見を有する者で構成された検討委員会を設置し、遺跡及び引揚げ遺物の保存・活用に向けた協議が行われ事業の効果的な推進が図られた。 - 地域おこし協力隊インタレンとして大学研究員が引揚遺物の調査研究を行い一部の遺物の用途が明らかになった。 - 重要考古資料に選定された開陽丸引揚遺物のデータベース作成のため、会計年度任用職員を配置し整理が進んだ。	自己評価どおりで良い
29			B
開陽丸遺跡パロット事業 【成果説明書15ページ、 No.431】	- 水中遺跡調査（船体の状況調査・木材の劣化状態調査・引揚遺物の状態調査等） - 周辺地域の専門職員の実地研修 - 講座開催による普及啓発活動 - 先進地視察、文化庁事後報告等	「令和6年度日本における水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業にともなうパロット事業」により事業委託を受け、関係機関の協力のもと、今後の保存活用にに向けた遺跡の状況調査を進めることができた。 - 調査にあわせて近隣専門職員の実地研修を行うことにより技術の普及が図られた。 - 町民向けに講座を開催することにより、町民への意識醸成が図られた。	自己評価どおりで良い
30			A
町内パークゴルフ場管理支援 【成果説明書16ページ、 No.432】	- 町内パークゴルフ場管理支援（3団体） - 外周フェンス修繕	- 江差パークゴルフ協会、水堀パークゴルフ愛好会、南が丘パークゴルフ愛遊会に対し、補助を行い、活動支援が図られた。 - 江差パークゴルフ協会が管理する江差追分パークゴルフ場の管理のため老朽化した外周フェンスの資材を提供し施設の維持管理を図ることができた。	自己評価どおりで良い
31			B

（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

事務事業（評価項目）		実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見	社会教育課 評価
生涯スポーツ推進 【成果説明書16～17ページ、 No.433、436】	・スポーツ推進委員会（1回開催） ・スポーツ少年団大会、檜山管内スポーツフェスタ、合宿・各種大会、スポーツ団体、部活動等活動支援 ・学社融合スキー学習支援 ・夏休みスイミングスクール ・冬休みスキーレッスン ・江差町スポーツ協会、江差町スポーツ少年団本部支援、活動助成、指定寄附による活動補助	・委員会での意見交換、研修会への参加など、活発な活動が行われた。 ・スポーツ振興のために各種大会等活動について支援を実施した。 ・小学生の水泳技術向上に向けたスイミングスクールの開催し、子ども達の泳力向上に寄与した。 ・小中学校のスキー授業に対し講師を派遣し、授業支援を行った。 ・小学1年生から4年生を対象としたスキーレッスンを開催し、スキー技術の向上に寄与した。 ・スポーツ協会、スポーツ少年団本部の事務局として各活動の支援のほか、企業からの寄付金によりスポーツ少年団への活動支援を行うことができた。 ・児童・生徒の減少により各少年団活動への新たな加入など団員確保や指導者の確保が課題。 ・学習支援用のスキーを町内の児童・生徒へ貸出しを行い、スキー授業や冬季間の活動を支援することができた。 ・上ノ国町との社会教育施設の相互利用協定により、総合体育館での少年団活動やトレーニングセンターの利用など町民のスポーツ活動に寄与することができた。	自己評価どおりで良い	B	

32

| コンサドーレ札幌連携事業 【成果説明書17ページ、 No.435】 | - ・コンサドーレ札幌主催「小中学生を対象としたサッカー教室」を開催、10/12、小中学生35名参加 | - ・上ノ国町と合同で連携協定を締結したコンサドーレの協力を得て、運動やスポーツを通じた事業を令和5年度から継続して実施。令和6年度は江差町の運動公園において小中学生を対象としたサッカー教室を開催し技術向上を図られた。（R5は上ノ国町体育館で食育講座と基礎トレーニング講座を実施） | 自己評価どおりで良い | B |

33

（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である

令和7年度 江差町教育委員会事務事業評価一覧表（令和6年度事業）

社会教育課			
事務事業（評価項目）	実施状況	自己評価（成果と課題）	外部評価委員意見
運動公園管理 【成果説明書17～18ページ、 No.437、440】	- 運動公園の管理（4月1日から10月31日） 延べ14,158人使用 3 星側ダグアウト扉改修 - 子どもふれあい広場の開設	- 会計年度任用職員2名による平日管理及び活動団体による休日管理を行い、適切に管理が行われた。 - 運動公園野球場3 星側ダグアウトの鉄製扉のドアが腐食により開閉不可となったことから改修を行い、利用環境の改善が図られた。 - 令和5年度にテニスコートの一部を改修し、フットサル及びバスケットボールが自由に楽しめる「子どもふれあい広場」を開設し、子ども達や親子の交流の場として多くの方に利用され、運動公園の利用拡大につながった。 - プールの監視、清掃業務を警備、清掃業務の実績がある業者委託し、適切な管理が図られた。	自己評価どおりで良い
34			B
水堀町民プール管理 【成果説明書18ページ、 No.438】	管理業務の業者委託 7～8月のお盆期間を除く60日間開館 延べ1,638人使用	- 各スポーツ団体へ施設貸出を行い、健康増進のために活用された。 4 基設置されている暖房機の1 基が故障により運転不能となり、新たに1 基の取替を行い冬期間の暖房機能の維持を果たすことができた。	自己評価どおりで良い
35			B
朝日町民体育館管理 【成果説明書18ページ、 No.439、441】	- 朝日町民体育館の管理 延べ3,180人使用 - FF式温風器1 台取替		自己評価どおりで良い
36			B

（評価指標） A 十分達成されている B おおむね達成されている C やや不十分である D 不十分である